

元んしんぶんり



菜の花

今	尿酸結晶（尿沈渣）	（1）	おしらせ（会員検診）	（4）
回	検査情報（花粉症）	（2）	声	（4）
の	検査Q & A（血中アンモニア）	（2）	メ	モ（施設内勉強会）
紙	センター紹介（全自動尿中有形成成分分析装置）	（3）	編集後記	（4）
面	ひろば（携帯電話の豆知識－番外編－）	（3）	中綴じ（－病態へのアプローチ－）	

尿酸結晶（尿沈渣）

尿酸は、食物や体の細胞の核に含まれる「プリン体」が肝臓で分解された終末産物です。体内で尿酸の過剰産生や腎臓での排出能力の低下により、血中濃度が7mg/dl以上続くと、血漿中での飽和溶解度の関係から尿酸が体の様々なところで結晶化します。尿酸結晶はこれらが関節中や尿中に析出したものと考えられています。アルカリ性で溶けやすく、酸性では溶けにくいいため尿沈渣中に見られるときのpHは必ず酸性です。尿沈渣中での形態的特徴としては、レンズ状・砥石状・菱面体のプリズム状・ロゼット状・六角形の板状構造など様々な形態を示します。また、尿中の褐色色素（ウロエリスリン）を吸着するため黄褐色調を呈します。このように黄褐色調を呈する非細胞性沈渣は尿酸結晶やビリルビン結晶などが代表的です。厚みのある形状の場合は標本作成時にカバーガラスが持ち上がり、きれいにカバーリングできない事もあります。

尿沈渣を鏡検する時においてシスチン結晶（六角板状結晶・無色）やコレステロール結晶（階段状の方形板結晶・無色）に類似する場合がありますが、尿酸結晶は水酸化カリウムやアンモニア水に溶解するのでこれらの結晶との鑑別は可能です。



尿沈渣（×200倍）



尿沈渣（×200倍）



検査情報

花粉は少ないと思っていたのに・・・油断大敵！！花粉の季節です

○花粉飛散は少なめ、でも、花粉症予備軍はいっぱい！○

昨年は空前の花粉大飛散で花粉症患者の方にとってはつらく大変な年でした。2006年の花粉飛散は環境省の発表によると、福岡では平年より少ないと予測されています。ひと安心と思いきや、まだ発症はしていないものの、昨年、大量に花粉を取り込み少しの花粉飛散でも残念ながら花粉症デビュー（発症）してしまう方々が多数存在すると考えられます。今年の春も早めの対応が必要です。

○この時期、クシュン！といえば風邪？いやアレルギーかも？○

「咳・鼻水・鼻づまり」などの症状は、いわゆる「風邪」でも同様の症状です。しかし、このような症状が長引くようでしたら、「アレルギー」が原因という事も考えられます。

スギ以外にも原因となる花粉が数多くあり、初夏まで症状が長引くなどヒノキの他にイネ科にも感作されている事があります。また、秋のキク科に陽性を示す場合には初秋時期に来院を促し、治療を進める事が有用とされています。

更に、花粉以外の原因アレルゲンも調べる事で「季節性アレルギーなのか？通年性アレルギーの可能性はあるのか？対処法はどうすべきか？」を明確にでき、大変有用な情報となり得ます。

○おくちポカーン子って慢性鼻づまりかも？

昨今、花粉症も含め若年層で鼻アレルギーが増加していますが、本人も周りも鼻アレルギーと気づかず放置されているケースもあるようです。原因物質をつきとめ積極的な対処により改善が可能と考えられます。

∴ 当検査センターでは花粉症検査に有効な特異IgE 検査を実施しています ∴



スギの雄花の中の葯（やく）
この中に花粉がいっぱい！

検査Q & A

Q：血中アンモニアにおいて食後すぐの採血は影響ありますか？



A：当検査センターでは、予め除蛋白液を分注した血中アンモニア専用スピッツをお渡しして、それに血液を加えることにより除蛋白し呈色阻害成分を除去します。さらに試薬を加えて発色させ、この発色液の吸光度を測定しアンモニアの濃度を求めます。しかし高蛋白食摂取後では、除蛋白しきれずに上昇が見られることがあります。また激しい筋肉運動後にも上昇が見られますので、安静空腹時の採血をお勧めします。

化学検査 草野 広行



センターご紹介

全自動尿中有形成分分析装置 UF-100

今回は全自動尿中有形成分分析装置UF-100のご紹介です。

尿は被験者に何ら苦痛を与えず多量に採れ、しかも得られる診断情報が大きいので、尿検査はあらゆる臨床検査の中で最も基本的で重要な検査といえます。しかし、尿沈渣をはじめとするこれらの検査はこれまで目視によるため多くの時間と労力を要していましたが、本機の導入（稼働）によって、個人差や施設間差のない高精度なデータの提供が可能となりました。

UF-100は、尿中有形成分の定量をフローサイトメトリー法にて測定し、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の表記方法に変換された結果で出力されます。なお、定性検査と乖離した検体や基準範囲を超えた検体につきましては、再検査を行っております。『より早く・より正確』な検査情報の提供を心がけておりますので、ご期待ください。



ひろば

携帯電話の豆知識 ー番外編ー



ウィルコム、シャープ、マイクロソフトの3社は昨年10月20日、Windows Mobile5.0 for Pocket PCに対応した新端末「W-ZERO3」を発表した。「第3のコミュニケーション」とする同端末は、スライド式のフルキーボード、無線LAN機能、133万画素カメラなどPDA*1の様な機能を搭載した端末。

「キャッチコピーでは、ケータイでもパソコンでもない第3のコミュニケーションと なっていますが、あくまで携帯の延長にありたいと考えています。」とW-ZERO3を企画したウィルコム営業開発部のコメントが、インターネット上にありました。近年、携帯電話の高機能化でPDAやパソコンとの境界が曖昧になり、携帯電話が初めて発売された当初から考えると、予想も出来ないくらい進化しています。そんな中、今回はPDAが生き残りをかけて逆襲を始めたのでしょうか？

また、家電業界でも同様にパソコンとの境が曖昧になり、今や車などにもパソコン機能が組み込まれ、知らない間にパソコン？を使っている状況です。ユーザが求めるものを、ユーザの支持を得られる製品を、他社と差別化した商品を提供しないと生き残れない、変化の激しい世の中になっています。医療業界も同じような嵐が近づいています。

* 1：PDA（Personal Digital(Data) Assistants）携帯情報端末。国内では「電子手帳」などと呼ばれることもある。



お知らせ

会員検診（採血のみ）のご案内

3月は会員検診月です、もう採血はお済みですか。
年に一度のこの機会に血液検査をおすすめします。

検査項目：生化学22項目・蛋白分画・CRP定性・末梢血一般
白血球像・ヘモグロビンA1c・HBs抗原・HBs抗体
HCV抗体・PSA（男性のみ）

対象：福岡市医師会員

採血管種：血清・血球・血糖

実施期間：平成18年3月1日～末日

ご不明な点がございましたら営業担当者までお尋ね下さい。

声



私は南区大橋4丁目で父のあとを継いで小児科の診療を継続しています。父の時代から、福岡市医師会検査センターにすべての検査を依頼しています。

検査センターのみなさんは朝早くから夜も遅くまで、私たちがどんなに無理を言ってもいつも笑顔で検体の運びや検査結果の報告またそれ以外のお手伝いにも応じていただいています。

小児科の一般診療や救急診療を行っている場でも、感染による発熱疾患が圧倒的に多いのが特徴で、疾患によっては発熱が継続するため家族の不安も強くなり、それらの不安を和らげるのも子どもの健康管理には大事です。二次的な合併症などに症状が進むと信頼も薄れてきます。よって検査結果の早急な報告は非常に大事な情報のひとつです。

特に、都市部の子どもたちは、乳児期（0歳台）から集団生活（託児所や保育園など）の環境を体験するため、ウイルスや細菌などの感染を早くからおこしやすくなってきています。子どもたちの鼻汁、咳嗽、喘鳴、眼脂、耳漏、下痢などのカタル症状や皮膚の感染所見（化膿、膿痂疹、皮膚炎など）が多くみられ、当院では、抗生剤の適応や感受性などの確認が早急に必要な場合が多いです。福岡市医師会検査センターの細菌培養が一番信頼でき家族との信頼と安心感を保持することに非常に役立っています。

南区大橋4丁目で育っていく子どもたちの心身の健康を保っていくためにもセンターのみなさまの努力が非常な支えになっています。“毎日のお仕事も大変ですがいつまでも健康なからだを保ってがんばってください”子どもたちからのお礼の言葉です“僕たち（私たち）の健康をいつも守っていただきありがとうございます。検査センターのみなさまいつまでも健康な笑顔でがんばってください”

大山小児科医院 院長 橋本 信男

メモ

施設内勉強会

臨床検査技師・営業担当者向（参加要予約）

「症例検討」	3月30日(木)	16:00	於) カンファレンス室
「臨床検査の基礎知識」	4月18日(火)	14:00	於) カンファレンス室
「症例検討」	4月27日(木)	16:00	於) 7F和室

会議

臨床検査センター運営会議	3月28日(火)	19:30	於) 第一会議室
--------------	----------	-------	----------

編集後記 冬の天気変化について三寒四温ということが言われます。三日間寒い日あれば四日間暖かい日があり、七日周期で天気が変化するのです。ちょうど今頃この周期が短くなり、日一日と待ち遠しい春へ向かっているようです。



表紙の菜の花について…昔は菜の花の種子から自家製の菜種油を作っていた農家が多かったものです。桃の節句に、桃と菜の花を一組にして使う習わしは、江戸時代まで遡り、その風習はまだ失われていません。「菜の花や月は東に日は西に」と詠んだのは、与謝野蕪村で、日本には菜の花を題材にした詩歌がたくさんあります。アブラナ、ナタネナ、ハナナとも呼ばれている菜の花は、まるで早春とともに快活な思いも運んでくれるようです。旬の季節には、つぼみを束ねたものが花屋だけでなく、八百屋などの店先にも並びます。サラダや芥子カイシ和えにするとおいしくいただけます。また、菜の花を塩漬にした「菜の花漬」は京都の名物です。このように菜の花を使って春の香りで食卓を満たすのも楽しいものです。

原産地：南ヨーロッパ、東アジア 花言葉：快活さ 開花時期：12月～5月 最盛期：12月～3月

花色：黄、オレンジ 花持ち：5～7日程度

編集委員 喜久正和 大塚英樹 椎葉 満 井原慎治 奥野隆子 右田道男

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

福岡市医師会臨床検査センター TEL(092-852-1506) FAX(092-852-1510)

<http://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html> E-mail: fma@city.fukuoka.med.or.jp